

市町村名	宜野座村						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	農業用観光施設モデル整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章—3—(2)—エ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	産業振興課	事業実施 年度	平成 28	～ 令和 元	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	県内外から多くのイチゴ狩り来客者を受け入れることで、観光型農園による本村観光の進行を図るため、イチゴ用ハウス及び作業棟の整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合計	
	A. 予算現額	46,955	55,252	51,273	64,091	217,571	
	B. 執行済額	46,353	55,188	50,716	50,716	202,973	
	うち 交付金充当額	29,665	35,320	40,572	50,283	155,840	
	執行率(%) (B/A)	98.7%	99.9%	98.9%	79.1%	93.3%	
執行状況の説明	当初計画していたイチゴ用ハウス、作業棟に関しては計画通りの規模と仕様を実施することができた。建築資材の高騰や人件費の高騰により事業費9,348千円を増額した。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	○年度
	・農業用観光施設工事 4棟	目標	1棟	1棟	1棟	1棟	
		実績	1棟	1棟	1棟	1棟	
	・作業棟設置工事 68㎡/1棟	目標	1棟	1棟	1棟	1棟	
		実績	1棟	1棟	1棟	1棟	
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	○年度
	イチゴ狩り来客者 4,100人	目標	3,000人	3,000人	5,300人	4,100人	
		実績	2,400人	100人	5,673人	2,195人	
	【参考指標】 イチゴ出荷量	目標		2,700kg	2,700kg	2,700kg	
		実績		4,500kg	1,890kg	90kg	
	目標						
	実績						

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果		年度	年度	年度	年度	R2年度 目標/発現年度
	イチゴ狩り来客者 4,100人		目標	-	-	-	-
		実績	-	-	-	-	1,251人
		目標	/				
		実績					
状況説明	【R2年度】 ・令和元年度事業で整備した箇所におけるイチゴ狩り来客者数が目標を下回っている。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R2年度】 ・目標を下回った要因として、育苗栽培に苦慮したこともあり定植時期が遅れ繁忙期に稼働率が半減程になったことが考えられる。			【R2年度】 ・育苗管理の早期着手と環境改善(防除対策等)に取り組む。 ・宜野座村全体におけるイチゴ狩り来客者数は増加傾向であり、農家により個々の技術は向上していると考えられ、イチゴ生産組合をとおして勉強会等を実施し、全体的な栽培技術のレベルアップを図る。				
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)							
【R2年度】 ・イチゴ生産組合等により、農家の技術向上と情報共有を図り、数種類の品種を栽培するなど、出来るだけ長期間で安定的な「いちご狩り」体験を供給できるよう取り組むとともに、生育状況の情報発信等による集客力向上についても検討していく。 ・これまでの取組により、いちご狩りは本村における重要な観光資源へと成長している為、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながらイチゴ狩りを実施するとともに、いちご狩りが実施出来ない場合の対策については、村内での販路確保等、行政も一緒になり取り組んでいく必要がある。 ・村内観光関連パンフレット等により通年で「イチゴの里」宜野座村をPRするとともに、今後のイチゴ狩りの需要を見極めながらハウスの増設や予約システムなどの利便性向上についても引き続き検討していく。							

市町村名	宜野座村						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	農業用観光施設モデル整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章—3—(2)—エ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	産業振興課	事業実施 年度	平成 28	～	令和 元	年度 III—1—(6)	
事業内容	県内外から多くのイチゴ狩り来客者を受け入れることで、観光型農園による本村観光の進行を図るため、イチゴ用ハウス及び作業棟の整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合計	
	A. 予算現額	46,955	55,252	51,273	64,091	217,571	
	B. 執行済額	46,353	55,188	50,716	50,716	202,973	
	うち 交付金充当額	29,665	35,320	40,572	50,283	155,840	
	執行率(%) (B/A)	98.7%	99.9%	98.9%	79.1%	93.3%	
執行状況の説明	当初計画していたイチゴ用ハウス、作業棟に関しては計画通りの規模と仕様を実施することができた。建築資材の高騰や人件費の高騰により事業費9,348千円を増額した。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	○年度
	・農業用観光施設工事 4棟	目標	1棟	1棟	1棟	1棟	
		実績	1棟	1棟	1棟	1棟	
	・作業棟設置工事 68㎡/4棟	目標	1棟	1棟	1棟	1棟	
		実績	1棟	1棟	1棟	1棟	
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	○年度
	イチゴ狩り来客者 4,100人	目標	3,000人	3,000人	5,300人	4,100人	
		実績	2,400人	100人	5,673人	2,195人	
	【参考指標】 イチゴ出荷量	目標		2,700kg	2,700kg	2,700kg	
		実績		4,500kg	1,890kg	90kg	
	目標						
	実績						

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)	達成/進捗状況	達成/進捗状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度 目標/発現年度
<input checked="" type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果						
イチゴ狩り来客者 4,100人	目標	3,000人	3,000人	5,300人	4,100人	4,100人
	実績	2,400人	100人	5,673人	2,195人	1,251人
【参考指標】 イチゴ出荷量	目標		2,700kg	2,700kg	2,700kg	2,700kg
	実績		4,500kg	1,890kg	90kg	62kg

事業完了後の 成果目標 状況説明	【H28～H29年度】 ・イチゴ狩り来客数は目標を下回っている。 ・H29年度は出荷先との契約上イチゴ狩りの来客数は下回っているが、出荷量に関しては大幅に増となっている。
	【H30年度】 ・来客数に関しては107%と目標を上回っている。
	【R元年度】 ・来客数、出荷量ともに目標を下回っている。

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【H28～H29年度】 ・来客数が下回っていることについて、事業導入後ということもあり周知不足等が要因で目標を達成できなかった。 ・年々イチゴ狩りの需要は増加しており、生産組合としてのPR活動を強化し、来客数増加が見込まれる。	【H28～H29年度】 ・周知方法の見直しや生産組合員全員が栽培技術の向上を含めた勉強会、PR活動の強化を図る必要がある。
【H30年度】 ・海外からの来客数も増加し、目標を大きく上回る成果となった。	【H30年度】 ・海外客に対する対応に課題が残る。多言語に対応する予約システムやアクセス方法の見直し。
【R元年度】 ・目標を下回った要因として、育苗栽培に苦慮したこともあり定植時期が遅れ繁忙期に稼働率が半減程になった。早めの育苗管理をすることや育苗環境の改善が課題である。	【H元年度】 ・栽培技術の向上と勉強会、早めの防除対策が必要となる。

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【R元年度】 ・村内観光関連パンフレットや村勢要覧等により通年で「イチゴの里」宜野座村をPRするとともに、いちご狩りシーズン前頃から新聞やTVメディア、インターネット(SNS)等を活用しPR強化を行う。また、外国人観光客の対応を強化するため、予約システムや案内板などの多言語化について検討していく。
【R2年度】 ・イチゴ生産組合等により、農家の技術向上と情報共有を図り、数種類の品種を栽培するなど、出来るだけ長期間で安定的な「いちご狩り」体験を供給できるよう取り組むとともに、生育状況の情報発信等についても検討していく。 これまでの取組により、いちご狩りは本村における重要な観光資源へと成長している。引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながらイチゴ狩りを実施するとともに、いちご狩りが実施出来ない場合の対策については、村内での販路確保等、行政も一緒になり取り組んでいく必要がある。
【 年度】 ・